

Chernobyl Priyoretsu

発行：「 Chernobyl Priyoretsu Kyushu」事務局

連絡先：北九州市小倉南区徳吉東 1-13-24

TEL・FAX 093-452-0665

口座番号：福岡 7-65328

加入者名： Chernobyl Priyoretsu Kyushu

No. 1 3

1992年 7月22日

Chernobyl Priyoretsu Kyushu
 Chernobyl Priyoretsu Kyushu

9月7日～19日

Беларускі
Сацыяльна-Экалагічны
Саюз "Чарнобыль"

Республіка Беларусь,
220048 Мінск, вул. Мяснікова 39
Тэлефон (0172) 20-39-04
Тэлефакс (0172) 23-90-14



Belarusian
Socio-Ecological
Union "Chernobyl"

Republic of Belarus
220048 Minsk Miasnikova street 39
Telephone (0172) 20-39-04
Fax (0172) 23-90-14

Mamoru Fukae
Kitakyusyu City, Japan
Fax (093)4520665

June 1, 1992

Dear friend,

do you remember our conversation about a specialized sanatorium? Preliminary to my coming to Japan I would like to tell you about a splendid possibility to open a new recuperation center or a sanatorium in a radiation-free zone near Minsk. Belarusian Socio-Ecological Union "Chernobyl" made an arrangement with the sport-and-health base "Stayky" to rent their living and sport facilities, including a medical consultation office, saunas, a swimming-pool, a riding-hall, a cinema-hall, etc. for three years to be prolonged later. Every month 250-300 people can be made healthier there and there is a possibility to develop and expand the medical office by making it more specialized. It is a picturesque place with a lake and forests nearby. I'll bring a booklet and some photographs of it when I come.

Considering your attention towards the concerns of the Chernobyl people I propose to the Chernobyl Aid Movement and if necessary, other Japan organizations a joint patronage and business cooperation with our Socio-Ecological Union for the development of the base to make healthier the children of Chernobyl and possibly their mothers too. At least we could open there together with the Japanese side an exemplary sanatorium of the joint venture type where some of your specialists could work, if willing.

We shall agree on the type of sanatorium after considering the specialists' advice. We are also prepared to consider your recommendations.

This sanatorium will require some additional medical equipment and constant financial help.

Our Union considers it most necessary to acquire a minibus to communicate with the sanatorium. I hope, Mr. Fukae, you'll consider and support our proposal. Thank you. Hope to hear from you.

Yours most sincerely

President of Belarusian Socio-Ecological Union

V. Yakovenko

「切尔ノブイリ通信No.13」をお届けします。五月の終りに出した通信で「ベラルーシから訪問団がやってきます」という案内を出したつきりでその後何の音沙汰もないと思われたことだろうと思います。何回かFAXのやりとりをしたのですが、(たぶん向こうのFAXの調子が悪いのだと思いますが)送ったというFAXが届いていなかったり、途中できれっていたり、文字が潰れていたりで、関心の部分が判読できないという状況が続いたりしたため、意志の疎通がうまくいきませんでした。そのために時間ばかりが過ぎてしまったという状況です。そこでこちらから日程を指定し招待状を送ることにしました。

ベラルーシからの訪問団は
9月7日から二週間の予定です

すでに八月のスケジュールは目一杯という状況だったので、九月の第二週から二週間ということにしました。

九月七日に日本にやってきて、一九日に帰るというスケジュールです。ですから、実質は八日から一八日の間各地で報告会ができるということになります。

やってくる人たちは以下の五人です。

- 1 ワシリ・ヤコベンコ。同盟の責任者で作家です。
- 2 ウラディミール・コレシュコ。ベラルーシ日本協会「切尔ノブイリーヒロシマ」会長。
- 3 アナトリー・ウォルコフ。独立放射

能学・エコロジカルセンター長。ベラルーシ共和国議会議員。

- 4 ニーナ・ドリック。ゴメリ医学・遺伝センター医長(英語ができる)。
- 5 タチアナ・コヴァリヨヴァ。同盟からの委嘱通訳。

ヤコベンコさんたちの訪問の目的について、通信12号で「ミンスク、モギリヨフ、ゴメリに建設が進められている子供医学-環境センターの運営を軌道に乗せるための支援を、日本の様々な団体に直接会って話をしたい」のだと書いていましたが、どうも違うようです。というのも、その手紙も後半部分が切れていて判読不明だったのですが、用件はどうも後半にあったようです。

昨年六月、私たちがミンスクを去る前に、同盟が進めている二つの計画について話を聞きました。その一つが遺伝学センター構想だったのですが、もう一つが子供のためのサナトリウム建設です。ミンスク郊外の汚染のないところに五〇〇人収容できるサナトリウムを建設したいというものでした。

今回の日本訪問の目的はこのサナトリウム建設、というよりもその維持、運営について具体化するための日本側の支援を求めたいというものです。FAXの内容については別紙掲載していますが、三〇〇人収容できる施設(スポーツセンター)を三年契約で借りることにしており(延長できる)、その運営のための医療設備、財政的支援について話をつめたいというものです。

サナトリウム計画について

ミンスクの保養地にあるスポーツセンターを三年契約で借りる予定を立てている。（期間についてはその都度延長できる）収容人数は三〇〇人で、職員もそのまま移行できるそうです。費用については、一人につき一ヶ月 3500 ルーブルの予算で運営でき、サナトリウム全体で一ヶ月 105 万ルーブル、一年で 1260 万ルーブル。（交換レートは現在 1 円 = 1 ルーブル）

子供の選別は地域病院の勧告により行う。保養期間は一ヶ月とか一年という単位で行う。保養所内での教育などは、例えばチェルノブイリ被災地の学校の 1 クラスを先生と一緒に招待すればクリアできる。また、サナトリウム内での検診などについては日本の医師に期待しているというものです。

ベラルーシには現在、ミンスクとゴメリにサナトリウムがあるが、チェルノブイリ被害に限らず、一般の病気療養の人（大人も含む）も入所しているという状況で、施設事態が圧倒的に不足している状況だそうです。ヤコベンコさんたちの今回の日本訪問は、このサナトリウム計画を軌道に乗せるために、私たちに協力をお願いしたいというものです。

『深江さん、あなたがこれに同意して下さることを確認し、この計画についてあなたの示唆や希望を述べて下さるようお願いします。このサナトリウムを何と呼ぶかについては、一緒に考えましょう。

私の考えでは、われわれの友好関係と日本の人々の情けを象徴して、あなたの国を指し示すような名前がいいと思います。呼称は地理的に考えて、例えば“オリエント” “日本の家” “スヴィスロッヂ河畔の九州”など。』（スヴィスロッヂは河の名前です。）

お返事を待っております。
敬具、

ワシル・ヤコベンコ
ミンスク 9

私たちがどこまでこの計画を支援していくことができるか、彼らがやってくるまでに結論を出さなければいけません。

早急に受け入れの準備をお願いします

ベラルーシからの訪問団は日本語の通訳を入れて五名ということになります。ゴメリ医学・遺伝センター医長のニーナ・ドリックさんが英語を話せるので、日本語のグループと英語のグループ二つに分けて報告会を開きたいと思います。

ベラルーシから 50 枚の写真パネルを持参し、「ベラルーシとチェルノブイリ」というタイトルで写真展を開催したいということなので、それも二つに分けてということになります。（パネルの数については可能ならもう少し増やしてもらいます。）

組合せとしては、ヤコベンコさんとアナトリー・ボルコフさんとタチアナさ

ん（通訳）をAグループにし、コレシュコさんとニーナ・ドリックさんをBグループにと考えています。それぞれどういう内容で話をしてもらうかは調整していませんが、希望があれば連絡ください。

日程については、早急に決定したいと思いますので、至急調整をお願いします。動く範囲としては九州、四国を考えています。北から南への行程ということで考えてみてください。

尚、由布院と串間で交流会を計画しています。由布院は一四日～一五日、串間は一七日の予定です。（詳細は次号にてお知らせします。）

受け入れにあたつての

諸準備・諸注意！

■ まず、一番問題になるのが費用の問題です。往復の渡航費、滞在費については私達の方で負担しなければなりません。ヤコベンコさんからの便りには「費用については相談しましょう」とありましたが、諸々の事情を考慮し、日本側が全て負担するということで招請状をだしました。いまのところ最終的にどれぐらいかかるかはわかりません。日本からいくということで考えれば、一三〇万円前後かかります。それよりは安くなりますが、目安ということでそれ位の費用が最低必要になります。これには滞在費は含まれていないので、これに二週間の滞在費が加算されることになります。滞在費については受け入れたところで負担するということで、経費負担については一會場に

つき七万円としたいと思います。この金額には、それぞれの地域でかかった経費、滞在費、移動費、及び支援カンパは含まれません。

■ 宿泊については、ホテルを確保してください。民泊を希望するところは民泊でもかまいません。民泊を考えているところがありましたら、早めに連絡ください。

■ 移動については、次の会場まで同行することになります。パネル等の荷物があるので車での移動がいいかもしれません。

■ 通訳の手配がつくところは、英語の通訳を手配をお願いします。どうしても手配ができないところは事務局の方で検討します。

■ 各地最大限の取り組みをお願いします。詳細については、次号にて詳しく提案します。

注意ください！

救援活動？それとも新たな資金作り

今、全国各地にチャレンジノブイリ救援を名乗るいかがわしいグループが出没しています。このような団体は、眞面目にチャレンジノブイリ支援を続けている私たちや、各地のボランティアとは全く関係ありません。

どういうわけか、たまたま休みで家族

で夕食を取っている我が家へそれらしい二人組が訪ねてきたのです。一見して何かちょっと違うなと感じさせる目つきの青年です。チェルノブイリの子供たちに粉ミルクを送るので寄付をしてほしいという。そして署名簿に名前を記入してくれという。

確かに彼らが持ってきた新聞によると、ロシア、ベラルーシに救援活動は行っているようである。しかし、戸別訪問して半ば強制的に寄付を集めているのは我々の運動の趣旨とは違うし、何かうさん臭いものを感じたのです。

彼らはそれらしい団体を名乗り、身分証明書も持っていましたが、どこから来たのかと尋ねても答えようとせず、その団体のバックにあるのはどういうところか聞いても全く答えません。また、各地のチェルノブイリ支援団体との関連や、どういう趣旨で行っているのか尋ねても、本部に聞いてみてくれというばかりで満足に答えられませんでした。

その後の調べで、全国各地に同じような動きがあることが分かり、最近週刊誌を賑わしているある宗教団体関係ということです。そこは過去にも靈感商法などの問題を起こしたこともあり、寄付したものが全て救援に使われるのか疑問の残るところです。

都会ではなかなか相手にされないので地方で活動を続けているようですが、皆さん方のまわりにこのような動きがありましたら、充分注意してください。私たちはあくまでも各人の自発的な行為を基本とした運動としたいものです。

(河上)

串間原発に反対する

九州住民合宿へのご案内！

九州電力が串間市に原発の新規立地を打診して七ヵ月が過ぎました。この間、市主催による二回の推進のための講演会が開かれたりしていますが、反対派も少しづつネットワークが広がりつつあります。この輪をさらに九州規模で広げ、交流を深めていこうと合宿を計画しました。私たちがチェルノブイリを支援していくということは、再びチェルノブイリを繰り返さないということであり、そのためにも原発を一日も早く止めることです。ましてや新しい原発を建てさせるなど許してはなりません。夏休み、野性馬とサルが遊ぶ都井岬で串間の自然をこころゆくまで味わってください。

とき：8月22日～23日

ところ：都井岬国民宿舎清水旅館
(貸切です)

参加費：8200円(宿泊費込み)
(子供は半額になります)

当日は講演会、交流会、学習会と盛り沢山の企画が用意してあります
是非参加してください。

問い合わせは深江まで

6月1日づけの手紙

様啓、

専門のサナトリウムについての話を覚えてますか？ 日本に行く前に、新しい回復センターまたはサナトリウムをミンスクの近くの放射能に汚染されていない地区に開く可能性について話したいと思います。ベラルシアエコロジー同盟“チェルノブイリ”は、スポーツと健康の基地“ステイカイ”と、医学コンサルタント事務所やサウナ、水泳プール、乗馬ホールなど彼らの生活とスポーツ施設を3年の間借りる協定を結びました。3年というのはあとで延長することになっています。毎月250人から300人の人々がそこで健康を回復できるでしょう。また、もっと専門化することにより、医学オフィスを拡張する可能性もあります。湖と森が近くにある風光明媚な場所です。日本に行く際に、紹介パンフと写真をいくつか持つて行きましょう。

チェルノブイリ被災者に対するあなたの関心については、チェルノブイリ支援運動と、もし可能なら他の日本の機関とに、われわれ社会エコロジー同盟と共に、チェルノブイリの子供たちとできればその母親たちも一緒に健康にするための基地を開発できるよう、連合して支援にあたることと協調事業をしていくことを提案します。すくなくともわれわれは、日本側と共に、もしお望みならあなたたちの専門家もそこで働くような、共同事業型の、模範となるようなサナトリウムをそこに開くことができるでしょう。

専門家のアドバイスを受けた後で、サナトリウムのタイプについて合意できると思います。われわれとしてはあなたの忠告も喜んで考慮に入れる準備があります。

サナトリウムには他にも医療設備と、恒常的な財政支援が必要でしょう。

われわれ同盟はこのサナトリウムと行き来するためのミニバスが最も必要だと考えています。深江さん、われわれの提案を考慮にいれて下さり、支持して下さることを望んでいます。ありがとうございます。お返事待ってます。

敬具

ベラルーシ社会エコロジカル同盟 V. ヤコベンコ

Mr. Vasil Yakovenko , Presidesnt of the Belarusan Socio-Eco
logical Union " Chernobyl"
minsk

Dear friend :

We ,the members of " aid to Chernobyl " are willing to invite five members of the Belarusan Socio-Ecological Union during the period from September 7 till 19.

The members are as follow:

- 1) Vasil Yakovenko,President of the Union ,writer
- 2) Vladimir Koleshko ,President of the Byelorussian-Japanese Society "Tchernobyl-Hiroshima"
- 3)Anatoliy Vokov,Director of independent Radiology and Ecological Center,Deputy of Parliament of the Republic Belarus.
- 4) Nina Drick
- 5) Tatyana Lovalyova,Referee of the Union. interpreter.

We are ready to pay all the traveling and staying expenses in Japan.

Mamoru Fukae , President of " aid to Chernobyl " in Kyushu.

チエルノブイリ支援運動・九州
事務局
〒803-02 北九州市小倉南区徳吉東1-13-24
深江 守
TEL/FAX093-452-0665

Mamoru Fukae